1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3290400088
法人名	有限会社　伊野本陣
事業所名	グループホーム　やまもも
所在地 （電話番号）	島根県出雲市美野町504 （電　話）0853－67－9180

評価機関名	有限会社　保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成21年4月23日	評価確定日	

【情報提供票より】（　年　月　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　19　年　2　月　28　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤　7　人，非常勤　2　人，常勤換算　8．3

（2）建物概要

建物形態	(併設)／単独	新築／(改築)
建物構造	木造　造り	
	1　階建ての　階　～　1 階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	51,000　円		その他の経費（月額）	13,000　円
敷　金	有（　円）		(○)無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） (○)無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1200　円			

（4）利用者の概要（ 4月　20日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均　79 歳	最低	64 歳	最高	91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	出雲市立総合医療センター、きさ内科皮フ科クリニック、島田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは宍道湖畔の一畑電鉄伊野灘駅周辺の住宅地の一角にあり、江戸時代の古民家を改修して2年前に開設され、小規模多機能居宅介護と認知症デイサービスが併設されている。建物周辺は既存の樹木も残され広い敷地に手入れの行き届いた庭やゲートボール場、畑、雉小屋があるなど恵まれた環境の中にある。
利用者は8割が病院からの入所であり介護度や医療ニーズの高い人が多く、身体的ケアの比重が高いが日々ケアの質の向上に励んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 広報紙の発行に取り組み、月1回発行し。コミュニティーセンターに置かせてもらったり、地域の各家庭に回覧させてもらっている。内容は事業所の活動報告や認知症について理解を深めてもらうシリーズを掲載している。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価にあたり、職員はその意義を学習して評価に取り組み、全員で討議してまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 小規模多機能、認知症対応型デイサービスと合同で2ヶ月に1回開催している。市介護保険課、地域包括支援センター、利用者、家族代表、近隣住民の医療機関の地域連携室担当者の参加があった。活動報告、介護保険の説明、総合医療センターの回復期病棟の状況、ターミナルケアの方針、褥そうの治癒への事例報告など意義ある意見交換がありホームのあり方が話し合える場となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 来訪時に家族が意見、不満を言い易いような雰囲気作りに重点をおいている。出された意見要望等はミーティングで話し合い反映させている。 家族へのアンケート調査も行い、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 挨拶など日常的な付き合いを大切にし、話し相手の地域のボランティアの受け入れ、小中学生の体験学習の受け入れや“本陣祭り”や“とんどさん”などの催し物を通して地域の人たちとの交流の輪が広がっている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時につくられた経営理念、ケア理念に対する昨年の外部評価の指摘について、ケア理念の「共に喜び、共に楽しみ、共に笑って共に過ごす」の「共に」が地域の人も含むことを話し合って確認している。	○	地域密着型の住み慣れた地域で安心した暮らしの理念を取り入れた誰でも一見して理解できるような理念を望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議で理念について話し合い理解している。日々の申し送り、ミーテングでケア理念を復唱している。ホーム内各所に木製プレートで解り易く掲示している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの近所の方が都度訪問され話し相手をしてくれる。中学生の体験学習、小学生の「福祉をしろう」の総合学習の訪問があり交流を深めている。伊野本陣の事業所たよりで行事や「認知症」の特集を紹介されホームを理解する取り組みがされていた。また、地区のお知らせと共に便りが回覧板で紹介されている。施設で行われる“本陣祭り”に地域の人が訪れ地域で行う“とんどさん”に参加して地域の人々と交流している。		公民館活動の参加、民生委員との関わりを持って地元の方との交流を深められると良いと思います。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価内容の意義を説明し、職員は理解をして取り組まれた。職員全員で改善の話し合い、検討し改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。小規模多機能、デイサービス合同で開催している。介護保険制度、状況報告、褥そうの事例報告などしている。利用者、家族、市介護保険課、地域包括支援センター、地域住民代表、医療機関の参加があった。家族や指定医療機関、出雲市担当課と意見交換され今後に取り組んでいる。		地域の民生委員の参加を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者は市役所の担当課と電話連絡や足を運んで連携をはかっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に生活状況、症状の変化、健康管理、内服のせつめいをしている。金銭管理は3ヶ月に1回家族に送付している。説明の希望の家族には都度行っている。希望の家族には月1度送付している。遠方の家族に金銭管理の報告は送付しているが、生活状況などのコメントを記載していない。必要時電話で説明している。面	○	利用料請求時に担当職員が暮らしぶりの報告など一言を添えられる事を期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族が意見、不満を言い易いような雰囲気作りに重点を置いているが、今年度は家族との面談を計画している。また、家族アンケート調査を行い運営に反映させている。		家族からホームで看取りをして欲しい希望が利用者全員だった。重度化、ターミナルの研修をされ職員が対応できるように検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は同一事業所との兼務の為特に家族に説明をしていない。アンケートで家族に説明をして欲しい希望があった。利用者はなじみの顔の為殆ど影響はない。離職の職員も同一事業所への配置換えである。	○	兼務について事業所便り等で知らせ、又、兼務職員も挨拶するなどの配慮を期待します。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	20年は施設長、管理者で都度内容に沿って外部研修の対応を行っていた。21年度は研修計画を作成し内外の研修に対応できるようにしている。ヘルパー資格取得講習者は勤務表の調整が行われている。管理者、ユニットリーダーが職員の 指導を行いケアの向上に努めている。身体拘束廃止、リスクマネジメント委員会を設置、職員全体で取り組ん		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市認知症グループホーム連絡協議会に加盟し、勉強会や研究発表会に積極的に参加してサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入所がほとんどの為医療施設の地域連携室の担当者と連絡を取り合い家族にホームの見学をしてもらっている。利用者が見学可能であれば対応、説明している。雰囲気に馴染めるよう家具等本人や家族が希望するものを相談して決めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添いながら思いや喜び苦しみ、不安などを表現できるようにボディタッチを心掛け利用者から学ぶ姿勢を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握は聞き取りを中心に行っているが、本人が言えない場合の把握が不十分である。	○	聞き取りを十分に行い、意向や希望の把握をされたい。アセスメントに記入がない方もあり、今後整備をされたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人と家族意向や希望、を聞きながら管理者、担当職員で計画作成をしている。アンケートで利用者の家族全員が重度化、ターミナルのケアを希望されている。家族との話し合いの時間が設定できないため、ケアの充実が出来にくい。	○	職員会、カンファレンスを行い職員のケアの質の向上に努められたい。介護計画の意向、希望を明確に作成する。家族の話し合いの時間の設定が難しい時もある。ホームの行事などに合わせて実施されたらどうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月に1回モニタリングして計画の見直しを行っている。昨年の外部評価を検討して計画を実践して記録するなど試行錯誤の取り組みが行われている。現状に即した見直しプランの作成途中である。		モニタリングに沿って病状や課題の見直しのプランを今後早い時期に作成されたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、外泊、帰宅（墓参りなど）理美容院の利用などの送迎を希望に応じて柔軟に行っている。 併設の小規模多機能施設と自由に交流できる支援も行われている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は在宅時の医師の希望が聞き入れられる。希望があればホームのかかりつけ医が受診できる。24時間対応可能。病状の指導は受診時に行ってもらえる。認知症の専門医も紹介してもらうことができる。褥そうの処置にも皮膚科往診で適切な医療が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	アンケートをもとに法人、家族、施設長、管理者、職員が話し合いをして重度化、ターミナルケアに対応していく方針を持っている。かかりつけ医はターミナルの対応も可能である。		かかりつけ医に重度化、ターミナルの指導をしていただき、ケアの充実をされたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の同意は契約書で説明、押印されていた。排泄ケア、入浴ケアは管理者指導でプライバシーの保護はおこなわれている。記録類は事務所内に保管されている。	○	個人情報利用目的を誰でもわかる場所に掲示されたほうが良いと思われる。排泄、入浴のプライバシー保護のマニュアルがないので整備されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはほぼ決めてあるが、散歩や傾聴など無理強いせずペースにあわせたケアが行われていた。職員は利用者が希望に沿った生活が送られるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が利用者の希望を聞いて作成し、食材の買い物、調理、片付け等を利用者と一緒に行っている。　　時々外食して食事を楽しむこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を聞きながら16時ごろから夕食前までに実施されている。車椅子使用で立位が困難な利用者はデイサービスの機械浴を利用される。本人の希望で14時ごろより入浴される方もあり希望に沿った支援を行っている。リフト浴を利用する人は2日に1回にしているが、その他の人はほぼ毎日希望する時間に入浴できるように		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時の手伝い、洗濯物たたみ、掃除、畑作り、干し柿作り、鳥の世話等経験を生かせる場を作っている。また、小規模多機能施設の利用者との交流やカラオケは楽しみ気晴らしの場となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望があればほぼ毎日買い物外出を行うことができる。デイサービスの利用者と共にレクリエーションを行っているので場所の移動ができホームの中だけで過ごすことがない。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見通しが良く、安全確認がし易い造りになっており、日中は玄関や廊下のドアには鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。災害時飲料水の確保は出来ている。地域の協力体制は地区の駐在さんの協力も得られる。また運営推進会議で検討しているが、地域の消防隊から協力の申し出が得られている。毛布はリースなのでいつでも使用ができる。	○	食料等の備蓄を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	治療食はかかりつけの医療機関の管理栄養士より指導を受け状態に合わせた提供ができている。嚥下困難な利用者には状態に合わせた形態の食事が提供されされ、職員の全介助で安全な食事摂取が行われていた。食事、水分のチェックも実施されていた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本陣宿を改築し一部バリアフリーが取り入れられていた。大きな梁や吹き抜けの天井など昔を偲ぶことができる。車椅子の利用者や歩行器を使用している方があり和室もあるが利用できにくい。居室やトイレなど掃除が良くされていて不快な臭いは感じられなかった。		施設内に昔のくしや箪笥などが飾ってあり、また、出雲市の「まちづくり景観賞」を受賞されたので地域の方に時には開放され地域密着の取り組みとして地域交流されてはいかがでしょうか。。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各自が畳を敷いたり自宅から持ち込んだ収納戸棚や小物入れ、TVなどを置いてそれぞれ個性ある部屋になっている。		